

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 20 日現在

機関番号：14301

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2013～2014

課題番号：25884037

研究課題名(和文) マダガスカル語諸方言の分析と記述 - オーストロネシア比較言語学的視点から

研究課題名(英文) A descriptive study on Malagasy dialects from an Austronesian comparative perspective

研究代表者

西本 希呼 (NISHIMOTO, Noa)

京都大学・白眉センター・助教

研究者番号：10712416

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、主に南部沿岸部で話されているマラガシ語を対象に記述と分析を行い、オーストロネシア語圏での比較研究へと発展させることを主眼としている。比較の対象として、ルルツ語の調査研究を行っている。ルルツ語の譲渡可能、不可能の使い分け、及び所有人称代名詞を用いた等位文に関する分析を行った。これまで収集したデータは現在辞書作成ソフトに入力し、公開の準備を進めている。また、調査を続ける過程で、ルルツ島での植物利用、航海術を応用とした現地での伝統農法に関する資料が集まり、さらなる発展が期待される。成果の一部を、2014年7月マレーシア、8月ボツワナ、11月沖縄で行われた各種学会で研究発表を行った。

研究成果の概要(英文)：The objectives of this study are :(1) to analyze the verbal categories of Tandroy dialect of Malagasy, (2) to describe the morphological system of the language, (3) to compare Tandroy with other Austronesian languages.

I carried out field research in French Polynesia and gathered the data on Rurutu languages spoken in Austral. I am now preparing the database on Tandroy languages to public as online database. I presented part of my research at some international conferences held in Malaysia, Botswana.

研究分野：フィールド言語学

キーワード：マラガシ語 オーストロネシア語族 動詞形態統語論 記述言語学 民族植物学

1. 研究開始当初の背景

マダガスカル語はオーストロネシア語族西部マレー・ポリネシア語派に属し、マダガスカルの国民約 1700 万人および周辺地域フランス海外県マヨット島で話されている。マダガスカル語諸方言のうち書記資料の豊富な首都近辺で話されている Merina 方言とアラビア文字による書記資料の残る Antaimoro 方言などについては詳細な研究があるが、西洋諸語の文法に基づいて記述された伝統文法ではマダガスカル語固有の問題が正当に扱われていない。また、その他の諸方言の研究の歴史は非常に浅い。オーストロネシア諸語との比較研究に関心がよせられる中、マダガスカル語諸方言の分析は限られ利用可能な資料も乏しい。方言連鎖 (dialect continuum) に関する実証的研究も進んでいないのが現状である。

本研究で取り扱う Tandroy 方言を中心とするマダガスカル南部沿岸地域の諸方言は、マダガスカル語方言間の比較研究、方言連鎖の解明、およびマダガスカル語諸方言の系統的關係の解明に重要な位置を占める。

新たな研究対象地域であるルルツ島は東部ポリネシアの前史の解明に非常に重要な位置を占める (Bollt 2008)。本研究は、マダガスカル語の考察を深化させるとともに、研究対象をポリネシア地域の諸言語へと拡大し、新規の研究の可能性を模索する。

2. 研究の目的

本研究の目的は、応募者が従来取り組んできたマダガスカル語 Tandroy 方言とその周辺の諸方言の調査・分析をさらに進め、動詞カテゴリーを中心としたマダガスカル語に特徴的な文法事象の詳細および方言連鎖の様相を解明すること、そして、それらを通じて、マダガスカル語諸方言がいかなる歴史的経緯を経て現在のそれぞれの体系に至ったかを考察することである。併せて、マダガスカル語以外の同族言語の調査・分析にも視野を広げ、単一の言語・地域だけの研究では気づき難い共通性や相関・相違を見いだすことで、オーストロネシア諸語の比較言語学研究への発展を目指す。

3. 研究の方法

これまで研究対象としてきたマダガスカル語 Tandroy 方言、その周辺地域の Tanosy 方言、Mahafaly 方言、南部 Vezo 方言及び、2011 年度に調査を開始した同族のポリネシア諸語を主たる研究対象とする。本研究の研究対象言語は、全て未記述ないし消滅の危機に瀕する言語であるため、現地でのフィールドワークで母語話者を対象に言語調査を行い、これまでの応募者の一次資料および本研究で採集する最新のデータをもとに、分析と記述を進める。

主な研究調査地は、これまで調査を行ってきた 3 つの地域である。

(1) マダガスカル南部の Tandroy 話者地域、Mahafaly 話者地域、Tanosy 話者地域

(2) 仏領ポリネシア・オーストラル諸島のルルツ島

(3) ラパヌイ (チリ領イースター島)

政情、天災によって、調査の是非が揺れることがあるため、そのときの時勢に合わせて柔軟に調査地を選定する。

4. 研究成果

マダガスカルでの調査が、政情不安により、研究者らが現地で命の危険に瀕する事故に遭うなど、現地入りが困難となったため、これまでのマラガン語 Tandroy 方言の一次資料をもとに、電子媒体での公開を目指したデータベースを作成中である (辞書作成ソフトを利用)。諺や成句に見られるマダガスカル語 Tandroy 話者の植物や色の認識に関してまとめて、民族植物学的視点からの分析を行い、ボツワナ大学で開催された国際学会で発表を行った。政情不安が続き、最終年度の 3 月にマダガスカルの首都に短期間滞在し、文献収集を行った。Tandroy 話者でマダガスカル国外に滞在している人との交渉も含め、今後の資料収集の方法を検討中である。

マダガスカル語を広くオーストロネシア諸語の中から理解するために、ポリネシアでの調査を継続している。

本研究では、仏領ポリネシア、オーストラル諸島のルルツ島で話されているルルツ語を重点的に調査・研究を行った。2013 年 12 月と 2014 年 12 月にそれぞれ 3 週間現地調査へ赴いた。ルルツ語の所有人称代名詞、譲渡可能、不可能の使い分け、及び所有人称代名詞を用いた等位文に関する分析を行った。また、言語調査を続ける過程で、ルルツ島での植物利用、オーストロネシア語圏に特徴的な、占星術や航海術を応用とした現地での伝統農法に関する資料が集まり、今後さらなる発展が期待される。

言語の分析に加えて、仏領ポリネシアで話されている、タヒチ語やフランス語といった権威のある言語と、島固有の現地語との関係といった社会言語学的観点から観察を行い、簡易インタビュー調査や、研究協力者の助けを得て、現地語の普及政策、教育制度に関する調査も行っている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1 件)

Noa NISHIMOTO, *Maintien des langues indigènes en Polynésie française : le cas de Rurutu dans l'archipel des Îles Australes*, Société Coréenne d'Enseignement de Langue et Littérature Françaises, Société Japonaise de Didactique du Français, (2014), Actes du premier colloque international conjoint de la

SCELLF et de la SJDF Enjeux et perspectives de l'enseignement du français en Asie, Editions Daehaksa (Seoul), 2014, pp. 111-116.

〔学会発表〕(計 7 件)

Noa NISHIMOTO, Honorifics and speech levels in the Tandroy dialect of Malagasy, 6th Annual International Conference on Languages & Linguistics, Athens Institute for Education and Research, Greece. 8-11 July 2013.

Noa NISHIMOTO, Language documentation on Rurutu, 14th International Conference on Minority Languages, International Conference on Minority Languages, *RESOWI Center* of the University of Graz, 11-14 September 2013, Graz, Austria.

Noa NISHIMOTO, Maintien des langues indigènes en Polynésie française : le cas de Rurutu dans l'archipel, COLLOQUE INTERNATIONAL CONJOINT SCCELLF-SJDF, Enjeux et perspectives de l'enseignement du français en Asie, Bâtiment 12, Université Nationale de Séoul (UNS), 18-19 October, 2013.

Noa NISHIMOTO, The Natural Rhythms and the Indigenous Agricultural technology in Rurutu (French Polynesia) and Other Asia/Pacific Areas, 8th Malaysia International Conference on Languages, Literatures and Cultures, Malaysia, 12-14 August 2014.

Noa NISHIMOTO, An ethnobotanical approach to plant vocabulary and proverbs in the Tandroy dialect of Malagasy, Southern Madagascar, 3rd International Departmental Conference, July 30 – 1 August, 2014.

西本希呼、言語政策学会、「大言語が消滅し、小言語が安定する？」、2014年6月7日、8日、千葉大学。

西本希呼、南島セミナー、「海洋島嶼国の人間と自然の共存からみた言語多様性と生物多様性の考察」、沖縄国際大学、2014年11月7日

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

西本希呼、世界言葉博物館、
ルルツ語—仏領ポリネシア・オーストラ
ル諸島のことば
<http://www.chikyukotobamura.org/muse/low130324s.html>、2013年3月掲載。

西本希呼、世界言葉博物館、ラパヌイ語—チリ領イースター島で話されえいることば、NPO 法人地球ことばの村
<http://www.chikyukotobamura.org/muse/low130529s.html> 2013年5月掲載。

アウトリーチ活動

西本希呼、「自分で切り開く未来 今何ができるか？」、招待講演、分野別進路相談会、兵庫県立伊丹高等学校、2014年7月11日（金）

西本希呼、「言語学が可能にすることは何か？言語を科学する」京都大学ジュニアキャンパス、講義 B1、京都大学、2014年9月21日（日）

西本希呼、「はじめての言語調査 マダガスカルからイースター島まで」京都大学ジュニアキャンパス、講義 C1、2014年9月21日（日）

西本希呼、「言語多様性 vs.生物多様性」京都大学アカデミックデー、京都大学、2014年9月28日（日）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

西本希呼 （にしもと のあ）

研究者番号：1000010712416

(2) 研究分担者 無し

（ ）

研究者番号：

(3) 連携研究者 無し

（ ）

研究者番号：